令和５年度　江戸川区立清新第一小学校　学校関係者評価　最終評価報告書

学校教育目標	「体をきたえる子」　「思いやりのある子」※重点 「最後までやりぬく子」「進んで学習する子」	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・保護者・地域から信頼され、共に歩む学校、「チーム清新一小」による落ち着いた学校 ・体をきたえる子、思いやりのある子、最後までやりぬく子、進んで学習する子 ・児童一人一人としっかり向き合う教師　認め合い、学び合える教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞主幹教諭と主任教諭がリーダーシップを発揮して教育活動を進めることができ、子供たちが落ち着いて過ごすことができた。 行事の精選や効率的な会議の開催等により、ゆとりのある勤務体系を整えることができた。 ＜課題＞児童数が900人を超えていることにより多くの制限をしながら教育活動を進めているため、より効果的な活動について考える必要がある。 一人一台端末の有効活用を中心に、新たな教育課題に対応しながら指導を行っていく必要がある。		

教育委員会重点課題	＜取組項目＞　・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
学力の向上	＜学力の向上＞ ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・一人一台端末を授業の中で積極的に活用する。ミライシードを積極的に活用する。 ・3年生～6年生の算数は、少人数習熟度別による学習を展開する。 ・外部講師と連携し、放課後補習教室の充実を図る。 ・「江戸川っ子　study week！」を毎学期設定し、家庭学習の習慣化を図る。	・全国学力・学習状況調査の正答率で、全国平均を5%程度上回る。 ・東京ベーシック・ドリル診断テストで、平均正答率80%以上を目指す。	A	A	○全国学力・学習状況調査の正答率は、全国平均を約10%程度上回ることができた。 ●A層の児童が比較的多いが、C・D層の児童も多く。 ○一人一台端末については、毎日の授業の中で積極的に活用することができた。 ○放課後補習教室は、外部講師と連携しながら計画的に実施することができた。	A	・一人一台端末については、低学年の段階から授業の中で使用しているので、しっかり身に付いている。 ・算数を中心に小人数による授業が展開されていることは、児童にとって有効だと思う。 ・放課後の補習が、学力の底上げにつながるとよい。来年度も引き続き実施できると、学力の定着につながる。	・毎日の授業の充実を更に図る。少人数指導や教科担任制を計画的に進め、学力向上を図っていく。 ・今年度の研究を生かし、一人一台端末を学習の中で効果的に使用していく。 ・ミライシードのドリルを積極的に活用し、学校や家庭で基礎基本の学力定着を図っていく。
	＜読書科の更なる充実＞ ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・巡回図書館司書や図書ボランティアを活用し、学校図書館の整備や図書選定等を進める。 ・可動式書架を有効活用し、教室での探究的な学習の充実を図る。	・保護者、地域アンケートで、探究的な学びについての肯定的な回答80%以上を目指す。	A	B	○保護者・地域アンケートで、探究的な学びについての肯定的な回答は、85%程度だった。 ○巡回図書館司書や図書ボランティアにより、学校図書館の整備や選書は計画的に進められた。 ●巡回図書館司書の効果的な活用は十分ではなかった。学習につなげられるよう、周知していきたい。	B	・タブレット活用によるインターネットだけに頼ることなく、本にも親しんでほしい。 ・PTA図書ボランティアや図書館司書の協力で、学校図書環境が整備されている。 ・図書館司書の巡回は継続し、なるべく多くの時間学校で勤務できるとよい。	・学校図書館移設に伴い、学校図書館の整備を進める。 ・移動用書架を有効活用するため、図書選定依頼について周知し図書資料の積極的な活用を推進する。 ・巡回図書館司書やPTA図書ボランティアの活動や連携について、図書担当教員から全職員に周知する。
体力の向上	＜運動意欲や基礎体力の向上＞ ・日常の体育科授業の計画的な実施・充実 ・年間を通した運動遊びをはじめとした体力向上に向けた取組の実施・充実	・校内研究の研究教科に体育科を取り入れ、体育授業の充実を図り、体力向上を目指す。。 ・年間を通した運動遊びの取組や冬場の体力向上に向けた行事を計画的に進める。 ・昼休みの割当増加により、外遊びの習慣化を図る。	・保護者、地域アンケートで、体力向上についての肯定的な回答80%以上を目指す。	B	B	○保護者・地域アンケートで、体力向上についての肯定的な回答は80%程度だった。 ○持久走やマラソン大会、なわとびなど、冬場の体力向上の取組は計画通り実施することができた。 ●感染対策、児童数と校内環境の都合から、年間を通した運動遊びについては十分実施することができなかった。	B	・放課後や休日など、地域でも子供の運動機会が減っているように感じる。体育の授業や休み時間など、学校でも体を大きに動かす時間があるとよい。 ・マラソン大会やなわとびなどを計画することで、体を動かす機会を作り、子供たちが体を動かす機会を増やしてほしい。	・年間を通してなわとびに取り組ませることで、体力向上を図っていく。 ・日常の体育科授業の充実を図っていく。また、体育学習の中で、ICT機器を有効活用する。 ・休み時間だけにこだわらず、体育学習の中でも継続的に運動遊びに触れられるように計画する。
共生社会の実現に向けた教育の推進	＜特別支援教育の推進＞ ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・「一小スタンダード」に基づき、全学級で統一した学習環境や生活環境をつくる。 ・巡回指導教員、スクールカウンセラー、巡回心理士と連携しながら特別支援校内委員会の活性化を図る。	・保護者、地域アンケートで、基礎学力や基本的生活習慣についての肯定的な回答80%以上を目指す。 ・校内委員会年10回、判定委員会年4回を計画、実施する。	A	B	○保護者、地域アンケートで、基礎学力や基本的生活習慣についての肯定的な回答は90%以上だった。 ○「一小スタンダード」をもとに、学習習慣や生活環境はよく整っている。 ○校内委員会や判定委員会は年間の計画に沿って実施することができた。 ●スクールカウンセラーや巡回心理士と担任間での話し合いやフィードバックの時間が十分確保できなかった。	A	・子供たちは、非常に落ち着いて学校生活を送っている。 ・持ち物の準備などについては、家庭の協力が必要なので、協力してもらえるよう働きかけていく必要がある。 ・特別に支援を必要とする児童についての支援体制は今後も充実させてほしい。	・「声を出してのあいさつ」や「忘れ物0」の目標は継続して、環境を全学級において整える。 ・年間を通して校内委員会、判定委員会について計画し、適切に実施する。 ・支援を必要とする児童への支援体制について明確にし、言語学級や巡回指導と連携しながら指導を進める。
子どもたちの健全育成	＜子どもたちの健全育成に向けた取組＞ ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hypaer-QUの活用	・いじめアンケートや学校に関するアンケートを学期ごとに実施する。 ・「hyper-QU」を実施し、児童の実態を知ると共に一人一人に応じた支援を進める。	・年間3回のいじめアンケートや日常的な観察によりいじめの未然防止に努め、いじめ認知数0を目指す。 ・「hyper-QU」で学級満足群80%以上を目指す。	B	B	○保護者、地域アンケートで、思いやりの心の育成についての肯定的な回答は90%以上だった。 ○定期的にいじめアンケートを実施することで、いじめ防止及び早期発見につなげることができた。 ○SCによる5年生全員面談など、各学級の児童の実態について把握することができた。 ●「hyper-QU」の扱いについて、効果的に活用することができなかった。	B	・いじめや不登校のの問題については、早期発見と早期対応に努めてほしい。 ・学校行事などを通して、人への思いやりの心は、育っていると思う。	・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、巡回心理士等と連携しながら見守りを継続する。 ・アンケート調査の確実な実施や観察等により、いじめや不登校の未然防止及び早期発見に努める。 ・「いじめアンケート」や「hyper-QU」の実施と共に、効果的な活用方法について理解を深める。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	＜自校の取組の積極的な発信＞ ・学校ホームページの充実等 ・学校公開の実施・充実	・保護者・地域向けのお知らせや学校ホームページを充実させる。 ・一部制限を設けながら、年間4回の学校公開を計画的に実施する。	・保護者、地域アンケートで、学校の教育活動への理解についての肯定的な回答80%以上を目指す。 ・学校公開毎のアンケートで、肯定的な意見90%以上を目指す。	A	A	○保護者、地域アンケートで、学校の教育活動への理解についての肯定的な回答は90%以上だった。 ○学校生活の様子や行事、給食等についてホームページを活用してほぼ毎日発信することができた。 ●新しいホームページへの切り替え作業を計画的に行う必要がある。	A	・学校のホームパージを通して、子供たちの様子がよく分かる ・学校公開や学校行事が以前のように開催されるようになったことはよかった。なるべく多く足を運び、学校の様子をよく見るようにしたい	・連絡あぷりtetoruによる連絡方法が定着してきた。更に効果的に使用していく。 ・学校ホームパージの切り替えに伴い、外部機関の協力を得ながら、更に見やすいものにしていく。 ・学校公開や学校行事などについての案内を確実に行い、保護者、地域の方々に学校の様子を見ていただく。
	＜学校関係者評価の充実＞ ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学校評議員会や学校関係者向けアンケート、保護者アンケートを計画的に実施する。	・学校関係者評価において、取組・成果共に7割以上(B基準以上)を目指す。	B	A	○学校関係者評価及び保護者アンケートでは、ほぼ全ての項目で8割以上の肯定的な意見をいただくことができた。 ●評価アンケートのデジタル化により、回答率がやや低い状況なので、改善していく必要がある。	A	・デジタル化による回答と紙面による回答、それぞれの良さがある。評価アンケートの実施方法については検討していくとよい。 ・学校関係者評価の項目をもとに見ると、全ての面において十分達成できていると思う。	・アンケートの周知及び回答についての仕方を検討し、更に回答率を高めていく。 ・評価内容で比較的低かった内容については、当該項目の担当者が振り返り、新年度の計画に生かしていく。
特色ある教育の展開	＜思いやりのある児童の育成＞ ・道徳教育の充実 ・人権意識を高める教育活動の充実	・道徳授業地区公開講座では、全学級が道徳授業の公開を行う。 ・管理職による授業観察では、年間の中で1回は道徳の授業を行い、授業力向上を図る。 ・年間を通して「人権の花」運動の取組を推進し、全校児童に発信する。	・保護者、地域アンケートで、思いやりの心の育成についての肯定的な回答80%以上を目指す。	A	A	○保護者、地域アンケートで、思いやりの心の育成についての肯定的な回答は約90%であった。 ○道徳推進教師が中心となり、全学級で道徳授業のユニバーサルデザイン化を図ることができた。 ○「人権の花」運動では、栽培委員会が中心となって計画的に活動を展開することができた。 ●道徳の評価方法などについては、全校で共通理解を図っていく必要がある。	A	・学校公開での道徳授業や地区公開講座では、児童の様子を見ると共に、保護者も一緒に学ぶことができるのでよい機会となっている。 ・人権感覚については、子供のころからしっかり考えていけるとよい。	・道徳授業の進め方や評価方法等について、推進教師を中心に学校全体で共通理解を図っていく。 ・道徳授業公開や地区公開講座は、引き続き計画的に実施していく。 ・「人権の花」運動は、次年度2年目を迎えるので、栽培委員会を中心に、活動を盛り上げていく。